

2007 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	昼光シミュレーション小委員会	主 査 名：鈴木 広隆 就任年月：2007 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (光環境運営委員会)	委員長名：井上 勝夫 主 査 名：岩田 利枝
設 置 期 間	2007 年 4 月 ~ 2011 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>昼光は積極的に利用されるべきものであるが、そのためには精度の高い昼光シミュレーションを行う必要がある。同時に、精度の高い昼光シミュレーションの利用により、建築デザインに新たなきっかけを与えたり、昼光による積極的な空間演出も可能となる。本小委員会は、昼光シミュレーションに関わるこれまでの WG の活動を引継ぎ、開発されたシミュレーションツールの普及促進や、より実践的なシミュレーションツールの開発を目的として設置するものである。</p> <p>前半 2 年間</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 参加委員の役割分担の確定 ● 傘下の両 WG の活動内容の整理 ● 傘下の両 WG が連携を行うための微調整 <p>後半 2 年間</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 両 WG の活動内容の連結 	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：</p> <p>鈴木広隆(大阪市立大学)、吉澤望(東京理科大学)、原直也(関西大学)、岩田利枝(東海大学)、上谷芳昭(京都大学)、大井尚行(九州大学)、中村芳樹(東京工業大学)、浅田秀男(東京理科大学)、梅宮典子(大阪市立大学)、海宝幸一(日建設計)、後藤浩一(積水ハウス(株))、三木保弘(国土交通省)、宮島賢一(山内設計室)、吉田貢(鹿島建設(株))</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>昼光光源 WG：これまで昼光に関する測定機器の開発、測定システムの設置と整備、連続測定によるデータの取得、その整理と要約などが実施されたが、取得データの統一フォーマットでの整理やこれによる各地での交換利用などについては十分なされていない。また、建築内部環境の質を確保するには、光環境と温熱環境を総合的に構成する技術が必要である。本 WG では、これらの課題を解決し、熱環境分野における気象データとのリンクを視野にいたれた昼光データを提供することを目的とする。</p> <p>昼光シミュレーション開発・普及・評価 WG：これまで昼光を利用した空間の光環境を予測し、その結果を設計に反映させることは容易ではなかった。このため、2003 年度に設置された昼光シミュレーション SWG では、インターフェースやベンチマークの開発を行ってきた。本 WG では、これらをさらに改良するとともに、より広く一般にこれらの技術を普及させることを目的としている。</p>	
2007 年度予算	55,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有</p> <p>委員会 HP アドレス： http://graphics.arch.eng.osaka-cu.ac.jp/daylight/</p>

項 目	自己評価
委員会開催数	0 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1 . 参加委員の役割分担の確定 70%</p> <p>2 . 傘下の両 WG の活動内容の整理 60%</p> <p>3 . 傘下の両 WG が連携を行うための微調整 50%</p>
委員会活動の問題点・課題	1 . メンバーが一度に集まって議論を行う機会を設定することが難しい。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2007 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	C
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>これまで昼光シミュレーション小委員会では、(財)省エネルギー機構で開発中の LVECS を用いた昼光シミュレーションの講習会を実施する予定としていた。しかし、近年の建築学会大会等における昼光シミュレーションの実態を鑑みると、すでに普及している Radiance など他のツールを含め、アルゴリズムやパラメータ設定の方法などについて、広く説明を行うことが急務であると考え、LVECS の完成を待たず、講習会を行うこととした。講習会の内容の素案は、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Radiance による昼光シミュレーション ● LVECS による昼光シミュレーション ● (その他、普及しているツール(Inspirer や Form-Z など)による昼光シミュレーション) ● シミュレーション結果の簡単な検証と測光量に対応していないツールによる簡易昼光シミュレーション <p>本講習会は、2008 年 3 月の実施を検討していたが、建築学会事務局に確認したところ、本年度中の実施は時期的に困難であるとの回答を得たため、2008 年度の早い時期の実施を目指すこととする。2007 年度中に、上記講習会の内容や運営について話し合うための委員会を一度開催する予定である。</p> <p>なお、本報告では、「講習会」としているが、建築学会では出版を伴わないイベントでは「講習会」という文言を用いることが出来ないため、実施に当たっては別の文言を用いる。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。